

ファミリーデー② (R7.8.23-24)

○ねらい

- ①海と直接ふれあうことで、海への親しみや愛着、関心を高める
- ②海での体験活動をとおして、自己肯定感や自尊感情をはぐくみ、心の成長を促す
- ③親子が楽しい時間を共有することで、絆を深める機会とする

○参加実績

- ・日帰り…15家族 50名
- ・宿泊…39家族 158名
- 計 54家族 208名

宿泊は41家族を上限として募集した(各宿泊棟の談話室を除く全室に配室。ただし、空調が故障していた403号室は使用せず)。当日キャンセルが2家族あった。日帰りは駐車場の駐車可能台数を参加上限とした。

○スタッフ

- ・自然の家職員(所長、次長、企画指導専門職、総務・管理係、事業推進係)
- ・神奈川大学人間科学部 社会教育実習生 3名

○日程

- ・下表は一例。基本的に決められた時間内及び活動内容で家族ごとの自由行動とした。

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
8/23 (土)	受付 13:00	開会式	活動	替替え ・ 休憩		夕食 ・ 休憩		キャン プファ イアー	入浴 ・ 休憩	就寝 準備	消灯 22:00
8/24 (日)	起床 6:30	朝の つと い	朝食、清掃 活動準備等	活動		開会式	解散 12:30				

○活動内容

・水泳…水泳エリア A、Bを使った水泳活動。水泳監視員 2 名に加え、自然の家職員、社会教育実習生を各 1 名配置し、小さな子どもでも十分に楽しめるよう安全に配慮した。最初は波打ち際までしか入れなかった子どもが、次第に海に慣れてイカダまで泳ぐことができるようになり、喜んでいった。また「イカダから海に投げ込んで」と職員に頼む参加者の姿も見られた。



・磯観察、磯遊び…タイドプールでの磯観察、磯遊び活動。自然の家職員、社会教育実習生を各 1 名配置した。ひっくり返ったヒトデが自力で元に戻る様子を観察したり、エビの取り方を教わって挑戦したりなど、それぞれに生き物と触れ合い、磯を楽しむ姿が見られた。



・ターザンロープ飛び込み…カッター栈橋のクレーンから下がるロープを用いた飛び込み。自然の家職員 2 名、社会教育実習生 1 名を配置し、内 1 名はレスキューチューブを持って海中で待機とし、安全に活動を行えるよう配慮した。大人も子どもも思い思いに飛び込んでいた。はじめは怖がっていた子どもも、低い所で練習をして次第に慣れ、最後には、思い切り飛び込むことができるようになっていた。



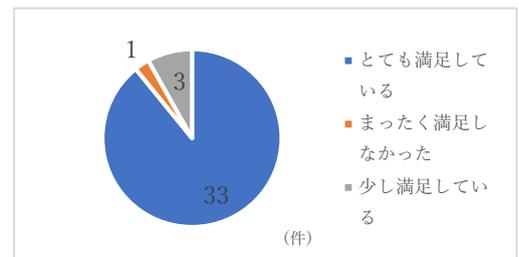
・キャンプファイアー…大決で実施。自然の家職員が司会進行(エールマスター)を務め、社会教育実習生 3 名がそれぞれレクリエーションを行った。



○参加者の声 (アンケート[回答率:69% 37/54 家族])

1. 回答選択式(択一)

①事業に参加して、いかがでしたか	割合(%)	
とても満足している	33	89.2
少し満足している	3	8.1
あまり満足しなかった	0	0
まったく満足しなかった	1	2.7

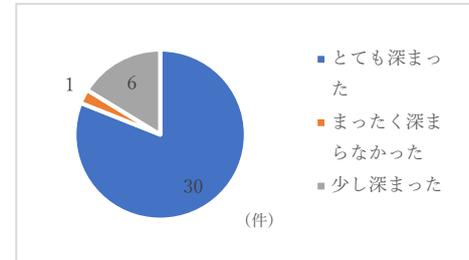


※「まったく満足しなかった」と回答した参加者は、自由記述欄に「とても充実した体験でした。子どもたちもとても楽しく過ごしていました。また、機会があれば参加したいです」と書いている。回答の選択ミスではないかと思われる。

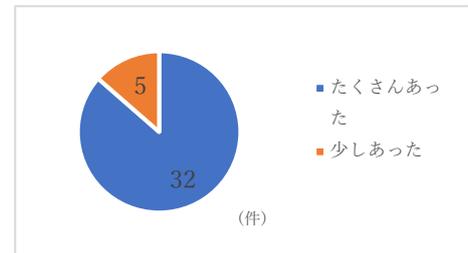
②参加して、海への親しみや愛着、関心は—		割合 (%)	
とても高まった	36	97.3	
少し高まった	1	2.7	
あまり高まらなかった	0	0	
まったく高まらなかった	0	0	



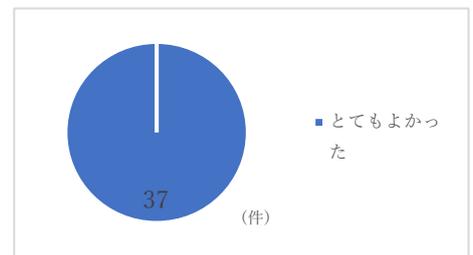
③親子で楽しい時間を共有し、親子の絆が—		割合 (%)	
とても深まった	30	81.1	
少し深まった	6	16.2	
あまり深まらなかった	0	0	
まったく深まらなかった	1	2.7	



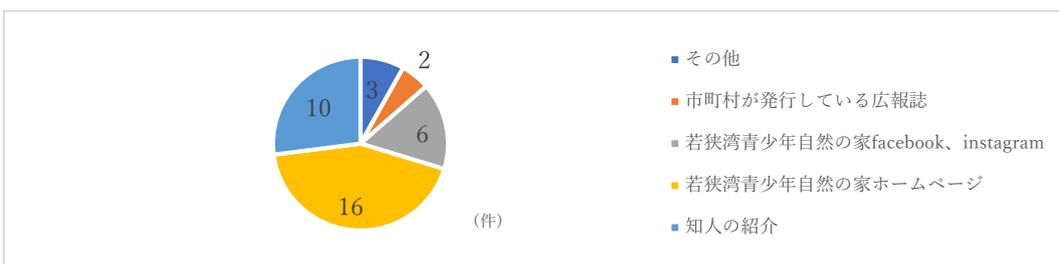
④事業中、お子さんがチャレンジする場面が—		割合 (%)	
たくさんあった	32	86.5	
少しあった	5	13.5	
あまりなかった	0	0	
まったくなかった	0	0	



⑤スタッフ(職員、ボランティア)の対応はいかがでしたか		割合 (%)	
とてもよかった	37	100	
まあまあよかった	0	0	
あまりよくなかった	0	0	
とてもよくなかった	0	0	



⑥この事業を何で知りましたか		割合 (%)	
その他	3	8.1	
市町村が発行している広報誌	2	5.4	
若狭湾青少年自然の家 facebook、instagram	6	16.2	
若狭湾青少年自然の家ホームページ	16	43.2	
知人の紹介	10	27	



2. 自由記述式(抜粋)

●当日のお子さんの言動で、印象深いものはありますか

- ・海に顔をつけられるようになった。(塩水が苦手でしたので)
- ・最初は怖気ついていたのに、飛び込み台からのクルリジャンプができるようになった！！
- ・今まで生き物を雑に扱っていましたが、磯観察の場所で生きてるからそーっとおいてあげてね。と伝えてから、生き物を虫かごに入れる時など優しく扱えるように。
- ・初めてのキャンプファイヤーでスタッフさん達のゲームも印象的だったのか、終了後キラキラした顔で「楽しかった」と言っていました。翌日の朝食時には学生スタッフさんを見つけて手を振っていました。羨望の眼差しだったように思います。
- ・何度も海から飛び込んで、一人でたくさん泳いで驚かされました！
- ・更衣室の清掃などを積極的にやる姿に成長を感じました。
- ・子供3人で参加しました。毎年海には行くので海が好きな家族ですが、3人とも潜る行為はあまりなく、水遊び程度ですが、今回は水が綺麗なので潜って魚をみたり、いかだのうえから、ジャンプしたり、海を楽しんでました。
- ・ターザンロープをはじめは怖がっていたが、段々できるようになり、最後は楽しそうに飛んでいたこと。

●その他、お気づきのことなどありましたら、ご自由にお書きください

- ・あんなに穏やかに海を楽しめたことが今年の夏の1番の思い出になりました。
- ・シーツをひいたり、洗濯を干したり、掃除したり、普段は家で手伝わぬ事を自分からやってくれました。洗面所やトイレが部屋から遠く、ちびっ子には大変でしたが、頑張ってくれました。
- ・昨年、とても楽しかったので、今年も行きたいと、子どもから頼まれ、今年も申し込みさせて頂きました。子ども参加を、大切にされているので、子どもたちのいい経験になっていると思います。単なる家族旅行では、得られない体験をさせて頂き、ありがとうございます。準備、片付けなど、大変だと思いますが、続けて頂きたいイベントです。
- ・子どもたちは特にキャンプファイヤーが楽しかったようです。なかなか家族で歌やゲームに親しむ時間をしっかりとれないので、親も楽しめました。また、どの場面でもスタッフの皆さんが、温かく、楽しませようとしてくれる声かけが素晴らしく、夏の最後の素敵な思い出になりました。ありがとうございました。
- ・毎年、この日を楽しみにしていたのでとても満足でした。京都から今年も一緒に参加した妹家族は、一年間この日を楽しみに仕事頑張っていると話すほどこの海を気に入っています。私も一度ここで泳ぐと他の海へは行けないほど素晴らしく美しい海だと感じています。大人になってこんなに海が好きだと感じさせて頂き感謝しています。運営や管理等大変かと思いますが生き物がいつまでも豊富に住み続ける海と、そこに触れ合える体験活動の機会をこれからも提供していただきたいです。よろしく願います。ありがとうございました。
- ・海の活動は我が家ではハードルが高く、機会が少ないです。自然の家の活動で、安全に体験できるので参加させて頂きました。環境の良さもですが、職員の方々や学生さんたちがフォローしてくださり、とても楽しい思い出になりました。ありがとうございました。
- ・前回参加し、終わったらキャンプファイヤーでの歌が、家族の記憶に残り、いつも「キャンプだほい」を歌って思い出していました。今回は、キャンプファイヤーでの「言うこと反対」が楽しかった様で思い出して話しています。

○成果

ねらい①海と直接ふれあうことで、海への親しみや愛着、関心を高める

アンケートの設問「②参加して、海への親しみや愛着、関心は―」に対しては、「とても高まった」の回答が 97%を占め、ねらい①については一定の成果があったものとする。

ねらい②海での体験活動をとおして、自己肯定感や自尊感情をはぐくみ、心の成長を促す

アンケートの設問「④事業中、お子さんがチャレンジする場面が―」に対しては、「たくさんあった(86.5%)」と「少しあった(13.5%)」を合わせ、ポジティブな回答が 100%を占めた。また、自由記述「当日のお子さんの言動で、印象深いものはありますか」の設問では、子どもが不安やできないことに挑戦、成功する姿、また保護者がその姿に感銘を受けている様子が活き活きと描写されている。エリクソンによれば、児童期(6～12歳)の成功体験は児童の勤勉性を育み、自己肯定感の土台となるものとされている。加えて、家族参加となる本事業においては、親からの直接的な評価を得られることで成功体験が更に強化され、自己肯定感の獲得に効果的な場面を多く提供できたのではないかと考える。

ねらい③親子が楽しい時間を共有することで、絆を深める機会とする

アンケートの設問「③親子で楽しい時間を共有し、親子の絆が―」に対しては、「とても深まった」「少し深まった」の回答を合わせて 97%となった。自由記述から垣間見える親子の姿に照らしてみても、ねらい③について一定の成果があったものとする。

○事業運営のツボ、工夫、課題

[ツボ・工夫]

- ・大浜でのキャンプファイアーを本年度のメイン企画とし、日帰りの家族にも参加してもらえよう、日帰り参加者もキャンプファイアー終わりの20:00まで滞在可、浴室利用も可とした。
- ・強制参加の日程をできる限り無くし、それぞれの家族が思い思いの時間を過ごしたり、家族形態に合わせて休憩時間を取ったりしやすいように配慮した。
- ・通り道となるホールに掲示板を設置し、変更事項等があった場合に確認しやすいようにした。
- ・各宿泊棟のリーダー室に設置している冷蔵庫を談話室に移動させ、どの家族も利用できるようにした。
- ・乳幼児や高齢者がいる家庭は移動が少なくなるように考慮して配室した。
- ・「駐車場係は受付よりも先に利用者とは接する役目であり、施設の顔である」という考えの下、駐車場係を 4 人配置して車両誘導を行った。結果、アンケートで「駐車場係が素晴らしい」と評価をいただいた。
- ・活動時間開始直後と終了直前にライフジャケット置き場に職員を配置し、正しい着用方法や片付け方をアナウンスした。また、大きな洗い桶を準備し、利用者が片づけやすいように配慮した。
- ・清掃チェックリストを配布し、退所点検がスムーズに行えるようにした。
- ・職員はビブスを着用することで、利用者からわかりやすいようにした。

[課題]

(1)プログラムについて

本年度のファミリーデー②は事業推進係主体で運営するにあたり、プログラム数は最低限での実施となった。そのため、参加者からは昨年度のファミリーデーで行った海の生き物とのふれあいコーナーや、磯釣りなどより多彩なプログラ

ムを望む声もあり、来年度は選択できるプログラムを増やすことを検討してもよいだろう。ファミリーデー①で行ったカヌーも人気であった。一方で、より大きな規模で実施する場合、事業推進係主体の事業としてではなく、自然の家全体の事業(かつてのファミリーフェスティバルのような)として、予算・人員配置の問題も含めて、位置づけなおすことを検討してよいと思われる。

(2)広報活動について

本事業は募集開始すぐから申し込みが多く、申し込み過多になるのを避けるため、外部サイトなどでの広報活動は控えた。広く周知しなかったことで、実数値は把握していないが、リピーターもしくはリピーターからの紹介者が多くなったと思われる。

幅広く体験を届けるという意味では、新規層に伝えるためのより広域な広報活動を行う必要がある。その場合、今年度の数字をベースに考えれば相当な申し込み過多が見込まれるが、その際、(1)全家族平等に抽選する。(2)初利用の家族を優先する。など抽選方法は今後検討する必要がある。アンケートにも見て取れる通り、毎年楽しみに来ているご家族もあり、(2)の場合、若狭湾を好きでいてくれる方たちを失望させてしまうことになりかねない。広報媒体と抽選方法については来年度実施時の検討課題としたい。